



ご近所同士の助け合いから 安心して暮らし続けられる地域へ

赤穂市社協では、「みんなで支え合うあったかい地域づくり」に向け、住民との協働による地域福祉の充実に取り組んできた。その中で、各地域が抱える福祉課題を住民相互の助け合いで解決する仕組みづくりを進めている。その主な取り組みとして、平成23年度より「パートナーサービスモデル事業」を実施し、95自治会のうち11自治会でモデル実施している。市社協では、仕組みづくりの相談に応じたり、関係機関につないだり、活動のサポートを行っている。

活動の中で

地域に根ざした見守り活動を展開中!

「パートナーサービスモデル事業」は地区ごとに展開方法はさまざまだが、学習会や福祉マップ作りなど、まずは地域を知ることから始め、そこから身近なエリアでの住民同士の助け合い活動が展開されている。

モデル地区の一つである上仮屋地区において、「網戸の張替えを頼みたいんだけど…」という相談が一人暮らし高齢者から世話役に入った。助けが欲しい人と、支援する協力会員をつなぐ世話役も地域住民が担っており、「私でよければ」と手を挙げた協力会員へ早速つなぐ。他にも畑の耕運、送迎、買い物代行、見守り等の生活のちょっとした困りごとに対応する。頼みごとをしやすいように

「自分の畑をこんなにきれいにしてもらって嬉しい!」—お互いさまの関係の始まりです



との意見からサービスは有償にしている。活動を通して、会員の中から「同じ自治会内の顔見知りで安心感がある」「自分の得意も生かすことができる」との声があがってきている。

月1回の地域の世話役会の中で

この地区では、地域で気になったことを共有するほか、活動を充実させるため、学習や視察を行ったり“ご近所同士だからこそできること”の知恵を出し合っている。

「今後は若い世帯をはじめ、誰でも気軽に利用できるように、声かけや広報で広めていきたい。この地区らしい風情、人情を取り戻し、より住みやすいまちになれば」と世話役代表の司波さんは、意気込みを語ってくれた。

月に一回の世話役会の様子。「元気しとったか?」「この前〇〇さんに会ったよ」と話題はつきません



活動のポイント 「お互いさま」でできることを少しずつ活動へつなげていく

取材を終えて

世話役会に参加すると、夜の会議にも関わらず楽しく活発な雰囲気、地域の困りごとの状況について聞くことができました。今まで気になったことをどこに持っていけば良いか困っていた、と言う人もいました。この仕組みを通じて近隣住民による助け合い活動が広まっていき、地域がより元気になると感じました。

理事長から

赤穂市社会福祉協議会 理事長 西元男

赤穂市社協では、「支えあい 助けあう ころろつながる やさしいまち あこう」を基本理念に掲げ、昨年度、地域福祉推進計画を策定いたしました。この計画では、すべての人々が主役となり、人と人との絆を大切に、つながりや思いやりを持って支えあい、助けあう関係や仕組みを作り、誰もが住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らせるまちづくりを進めていくこととしております。

パートナーサービスモデル事業は、各地域が抱える課題を住民相互の助けあいで解決するための仕組みを作る事業です。今後もその運営について適切な支援を進め、また市内の先行事例に関する情報を積極的に周知し、すべての地域での事業実施につなげていきたいと考えております。

